

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY 名古屋 ちくさ

題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 名古屋東急ホテル
事務局 TEL 763-5110 FAX 763-5121
E-mail chikusa_rc@hkg.odn.ne.jp
会長 吉田 玄
幹事 福井 浩道
公認イメージ委員会 林 永芳

No. 2

ロータリー：変化をもたらす
ROTARY：MAKING A DIFFERENCE

2017～2018年度

RI会長
イアンH.S.ライズリー

今日の例会

第1648回 平成29年 7月18日(火)
クラブフォーラム / 各委員会活動計画報告

先回の例会

第1647回 平成29年 7月11日(火)晴
クラブフォーラム / 各委員会活動計画報告

◆奉仕の理想

◆ビジター紹介

名古屋宮の杜 RC 会長 酒井 俊皓 君
副幹事 加藤 謙一 君
会計 遠山 堯郎 君

◆出席報告

会員 34(28)名 出席 22名
名誉会員 1名
出席率(名誉会員除く) 78.57 %
前々回 6/20(修正出席率) 96.88 %

福井幹事報告

- 1) 本日例会終了後、クラブアセンブリー理事会を開催致します。理事役員、委員長の皆様は4階「桐の間」へお集まり下さい。
- 2) 本日配布のご案内：①年次総会案内 ②ガバナー月信配信について ③今期クラブ計画書・ポケット名簿

吉田会長挨拶



みなさん今日は。
去る7月5日、元会長をお務め頂きました黒野清宇さんが逝去され、告別式に会葬させて頂きました。1993～1994度の会長ですからご存じない方も多いと思いますが、書道界の大家として著名であり当クラブバナーの裏も黒野さんの揮毫によるものです。慎んでご冥福をお祈り致します。

今日は、ビジターとして名古屋宮の杜 RC の酒井俊皓会長、加藤謙一副幹事、遠山堯郎会計の方々のご出席を賜りました。有難うございます。どうぞごゆっくりお寛ぎ下さい。

昨日は、福井幹事と一緒に、親クラブの東 RC へ期首のご挨拶に伺って参りました。例によってナゴヤキャッスルホテルへ近づくに連れて雨が降ってきまして、我ながら凄い神通力だなど思いながら走っておりました。さすが90名のクラブ。会場も満席です。当クラブの他に、和合クラブ、昭和クラブの会長幹事も出席しておまして、それぞれ壇上で短い挨拶を申し上げてきました。ただ、東 RC の西川会長は6月に手術をされて、先週今週とまだ休んでいらっしゃいました。それほどの大手術ではないので、8月からは出席できる模様だとお事でした。西川会長とは、先日、暫くしたら飲みましようとお話しましたので、確かにそのような様子ではありません。

私も身体は強い方ではありませんので、いつ欠席するかわかりませんが、頼もしい小林副会長がいらっしゃるの、安心しております。

それでも非常に緊張して座っておりましたが、顔なじみの方も多く皆さん大変フレンドリーに挨拶を頂き、一年間和やかにお付き合いできるだろうと思いついてまいりました。

当クラブも20年前はあのくらいの雰囲気だったのと、あらためて会員増強の重要性を噛みしめながら帰りました。

ひとつ、お詫びを申し上げなければいけない事があります。先週、うっかり「新会員入会式」と次第に書いてしまい、大口君、萩原さんにご迷惑をお掛けしました。大口君は、新会員でもなく、入会式でもなく、名誉会員から正会員へ、また宮の杜 RC から千種 RC への復籍のご挨拶ということになり、萩原さんも、一旦退会はされましたが、退会の際、復帰のお約束を頂いておりましたので、やはり新会員というより再入会のご挨拶と申し上げるべきでありました。

尚、萩原さん再入会の紹介者は一応私としておりますので、宜しくお願い致します。

◆名古屋宮の杜 RC 酒井俊皓 会長ご挨拶



名古屋宮の杜ロータリークラブ会長の酒井俊皓と申します。こうしてご挨拶の機会をお与えいただきましたこと、御礼申し上げます。我がクラブは、本年1月に、創立例会を開催した全く新しいクラブで

す。ご承知のように、大変難産の末に誕生したクラブでもあります。

当クラブ設立に際しては、貴クラブの会員でガバナー補佐もおつとめになった元会長の大口弘和様に、設立キーマンに入っていたいただき、設立までの諸課題につき的確なご指導を頂きました。そして、設立後は、当クラブの初代会長として新年度開始までの半年間、強いリーダーシップで当クラブを育てていただきました。特に、当クラブは、ロータリー経験者が4名で、平均年齢も49歳と1か月という若いクラブですので、大口直前会長には、大変ご迷惑、ご心配をお掛けしましたことを、心から、お詫び申し上げます。大口直前会長には、当クラブのクラブアドバイザーとして引き続き当クラブに対し、ご指導いただけることですので、宜しく願い申し上げます。また、貴クラブにおかれましては、大口直前会長を送り出していただいただけでなく、直接または間接に当クラブの設立、運営にご協力いただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

当クラブの本年度の会長方針は、「ロータリーを理解し、ロータリーを楽しもう。」としました。先ほど申し上げたとおり、若いクラブの特徴を生かして元気のあるクラブにしたいと思っています。

当クラブは、設立の経緯からも、ご迷惑かもしれませんが、勝手に貴クラブをスポンサークラブだと思っています。どうか貴クラブ、また貴クラブの会員の皆様におかれましては、今後とも当クラブに対し、ご指導ご鞭撻をお願いして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

クラブフォーラム / 今期委員会活動計画について

◆本年度会長方針 会長 吉田 玄

さて本日はクラブフォーラムとして各委員長の年度計画をお聴きするプログラムになっています。それに先だって、私も今期挙げさせて頂いた『クラブの未来を創りましょう』というクラブ会長テーマについて、少しその思いをお伝えしたいと存じます。

クラブ計画書にも書かせて頂きましたが、昨年度、RIは従来のRCイメージを大きく変化させました。標準定款、推奨細則が改正され、職業分類・会員資格・会員種類・例会頻度・例会方法・年会費、等々に大幅な柔軟性が加えられました。個人的な見方かもしれませんが、これはRIがそのような変化を取り入れなければ世界で今後RCが存在して行く事は困難であるという危機感と、RCを取りまく現状追認の結果導き出された改正だと考えます。

以前から、RCはそのアイデンティティーとしてクラ

ブ毎の独立性というものを大きく持っていますが、此度加えられた柔軟性は、改正点を取捨選択する自由度も大幅にあるという事です。我がクラブが35年という歳月の中で培ってきた独自性・特性を保持しながら、未来の名古屋千種RCを創って行かなければと考えます。

世界的に見れば、日本のRCは特殊な環境の中にあると考えても間違いはないと思います。どこの国も自らの国は特殊で他と異なると主張するでしょうが、我がクラブは日本という先進国の中の、しかも都市圏というやはり特殊な環境の中にあります。そして、現在我々は社会環境の激変の中にいます。世界でも経験した事のない社会に突入しています。それこそが日本のRCが置かれている最も特殊な環境だと言えます。その中では、守るべきものは守り、変えるべきものは変えて行かなければ我がクラブは勿論あらゆるものが存続はできません。

RIの定めでは、新クラブの創立最低人数は20人です。10人になってもRCの機能を維持していれば、終結にはならないそうですが、20人未満の会員になった場合、RIでは近隣クラブと合併すべきとしているそうです。我がクラブは、このまま会員減少に任せて、20人になり10人になり合併の道を取るのでしょうか。それともポールハリスら4人が始めたように、何人でも良いから毎週私的な会合を行うのでしょうか。それを望めばそうなるかもしれません。それも選択肢の一つです。

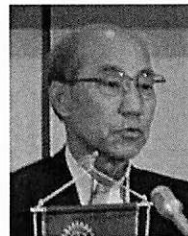
現在、当クラブは会員の減少に歯止めが掛かりません。名誉会員の竹内君は除きますが、何の因果か、今期は何と歴代最少34名のスタートとなってしまいました。そして7割以上(70.5%)が65才以上で、限界集落を超えた危機的集落になっています。一昔前に比較して現在の高齢者は非常に元気なのでクラブとしては大丈夫だと思うのですが、悩ましいのは、私も含めると会員の4割以上(44.1%で15名)が会長経験者で、尚且つ全会員の4割以上(41.2%で14名)が70代以上だということです。もう少し細かく見れば、59才未満が26.5%で9名、60才台が32.4%で11名、70才台が32.3%で11名、80才台が8.8%で3名です。

もう現状では、この7割以上を占める65才以上の会員に残る力を振り絞って頂くより他ありません。

残る力を振り絞るとは、勿論会員増強に他ありません。65才未満の会員の方は、勿論全力を挙げて会員増強に注力をお願いします。会員増強より他にクラブの未来を創る方法はありません。

◆会員増強委員会

委員長 大口 弘和



テーマ「チャレンジ：50」

近年、小・中規模のクラブほど会員が減少し、歴史があるとともに会員が多いクラブに押されて埋没する傾向にあります。今、千種RCはその狭間にあるように思えます。このままではクラブの存続が問われる事態になりかねないことを全会員に共有して頂くことが肝要と思います。

- ・会員増強にプラスとなるような環境を整備すること。
- ・昨年の規定審議会での規定改定を研究し、会員増強のための利点を探り実行に移す。
- ・クラブが自主性・独自性・多様性を持てるような、身

の丈に合ったクラブ活動方針を執行部にお願いする。
 ・クラブの設立初期を経験していない会員が多い中において、増強は全員の問題と自覚して頂くとともに、今から新しいクラブを設立するのだという気概を持って会員の増強案を考える。

予定として

- ・会員増強のための、全会員参加の会合を複数回開催
- ・地区会員増強委員会への出席。
- ・新入会員候補者の選考は速やかに行う。

◆ニコボックス委員会

委員長 渡邊 源市



当クラブのニコボックス収益は、5つの委員会（クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、青少年奉仕、国際奉仕（米山含む））の活動資金であり、その他記念品、特別事業積立金、予定外の事業など幅広く使われています。

これは皆さん一人一人がこの収益を支えていく必要があるということです。特定の会員の寄付に偏ることなく各会員が公平に寄附をしていただくようお願いいたします。今年度も各事業規模が例年通りなので、収支予算書で300万円を計上しました。皆さんから広く薄くニコノコのお気持ちをいただけるように、下記の2点をお願いいたします。

- 1：毎回例会に出席してニコボックスへご高志をお願いします
- 2：最低寄付目標額を1,500円とします。いつもの1,000円にワンコイン（500円）をご用意くださるようお願いいたします。皆さんが40回例会出席して1,500円寄付してくださると目標に随分近づきます。楽しい例会、充実した事業のために、ご協力よろしくをお願いします。

◆7月理事役員会議事録

7月11日

【審議報告事項】

- 1) ワールドフードふれ愛フェスタ例会変更とチケット購入について
10月14日（土）WFF会場にて例会を開催。
（10月10日の例会変更）例会費をチケット2冊に置き換え。他協賛チケット、協賛広告については7月18日に会員に案内。
- 2) 今年度予算について 承認 8月の総会に提出
- 3) 2020 - 21年度ガバナー候補者の推薦について
千種RCからは推薦者無し
- 4) 立法案提出について
千種RCとしては提出案無し
- 5) 九州北部大雨災害の義援協力について
現在、地区からの義援要請無し。クラブとしては今後の様子を見て判断する。
- 6) 次年度8月初日～9月末の例会場変更について
会長エレクト・副幹事からの会場案（ウイティナジヤックル）について、松楓閣で例会をしてはどうかという案もあり。再調整。

東急丸からの代替案東急REI丸はお断りをする。
 次回理事役員会では結論を出す。

- 7) 名古屋宮の杜RCとの今後の関係性について
ロータリー精神の中で尊重しつつ、都度理事会で決定する。千種RCが関係する案件は大口君より理事会にあげて頂き審議する。
- 8) 前年度インターアクト年次大会決算報告
- 9) 前年度決算報告
- 10) 今年度表彰について
 - ・在籍20年表彰 伊藤健文君（2月友愛の日）
 - ・米寿御祝い 佐野寛君（新年例会）
- 11) 訃報
H22年退会の元会員 黒野 清宇（貞夫）様（1993-94年度 第12代会長）が7月5日ご逝去。
内規に準じて 千種RCからは弔電と供花
- 12) 事務局夏期休館について
ガバナー事務所休館に合わせ 8/11～8/17 事務局休館
 - ・その間の緊急連絡につきましては、ポケット名簿の緊急連絡網に従ってご連絡お願い致します

ニコボックス

酒井 俊皓君（名古屋宮の杜RC 会長）
 加藤 謙一君（名古屋宮の杜RC 副幹事）
 遠山 堯郎君（名古屋宮の杜RC 会計）
 高木 勝君（名古屋宮の杜RC 幹事）
 増田 盛英君（名古屋宮の杜RC SAA）
 宮の杜創立会長として大口弘和さんには大変お世話になりました。有難うございました。
 大口 弘和
 名古屋宮の杜RC key memberの皆様のご来訪 歓迎します！
 鈴木 聖三
 吉田会長、福井幹事、楽しみながら頑張ってください
 渡邊 源市
 名古屋宮の杜ロータリークラブ会長酒井俊皓様はじめ会員の皆様ようこそお越し下さいました。
 楽しい会になりますように。

福井 浩道	萩原喜代子	林 永芳
堀江 宏輝	加藤 重雄	河合 隆史
小林 英毅	柵木 充明	太田 和孝
大谷 恩	笹野 義春	鈴木 理之
谷口 優	舎人 経昭	碓氷 美佳
余語 秀陽	吉田 玄	

21件 合計 51,200円



2017-18年度は
財団設立50周年

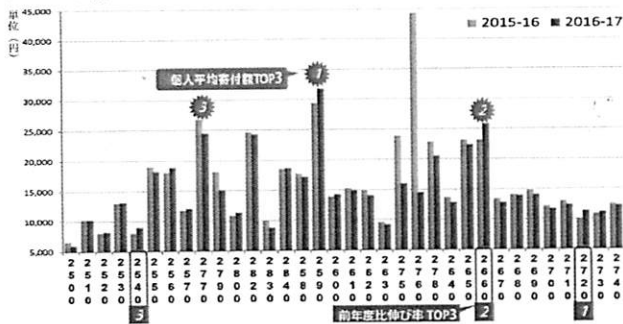


ハイライトよねやま

Vol.208 より

2016-17 年度寄付結果

2016-17 年度の寄付金は約 13 億 7,300 万円でした。前年度と比べて 13.0%減 (普通寄付金 0.8%増、特別寄付金 18.0%減)、約 2 億円の減少となりました。前年度は大口寄付があり、減少幅が大きくなっていますが、予算額 13 億 3,000 万円は無事達成することができました。会員皆さまのご尽力に深く感謝申し上げます。新年度も引き続き、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。



個人平均寄付額 TOP3

- ① 第 2590 地区：31,801 円
- ② 第 2660 地区：25,854 円
- ③ 第 2770 地区：24,498 円

個人平均寄付額の前年度比伸び率 TOP3

- ① 第 2720 地区：112.3%
- ② 第 2660 地区：110.9%
- ③ 第 2540 地区：110.7%

◇財団設立 50 周年記念誌発刊

当会では、財団設立 50 周年記念事業の一つとして、25 年ぶりの奨学会史となる『ロータリー米山記念奨学会 50 年のあゆみ』を 6 月末に刊行しました。

本記念誌には、米山梅吉氏の生涯と東京 RC による米山基金の設立、財団法人化とその後の組織拡大、奨学事業のさまざまな試行錯誤と変遷、巣立った学友の活躍など、現在に至るまでに当会が歩んだ歴史を余すところなく記録しています。

このほか、国内外の全学友会の紹介、50 周年記念特別座談会、各種資料、年表などを集録。これを読めば、よねやまの歴史がすべてわかります！クラブに 1 冊、お手元に 1 冊、米山記念奨学事業への理解促進に、ぜひご活用ください。

限定 3,500 部、1 冊 1,800 円 (送料込み) で頒布します。お申し込み方法は当会ホームページ：<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/50th#kinenshi> をご覧ください。

【ロータリーの友 7 月号より】

2017-18 年度国際ロータリーのテーマ
RI 世界本部公式訳文

ロータリー：変化をもたらす

イアン H.S. ライズリー

数年前、知り合った人からある質問をされました。「ロータリーとは何ですか？」シンプルであるはずのこの質問に答えようと口を開きかけたところで、思わず止まってしまいました。どこから説明してよいか分からなかったのです。ロータリーとは何かを、私か知らなかったわけではありません。問題は、ロータリーがあまりに大きく、複雑すぎて、簡単に説明できないことでした。ロータリーとは、会員制の団体、クラブを基盤とした団体、奉仕を行う団体であり、町ごと、地域ごと、そして全世界で活動する団体です。その会員は、地域社会のメンバー、事業人、職業人であり、現役で仕事をする人もいれば、定年退職した人もいます。そして、世界のほぼすべての国で活動しています。120 万人の会員一人ひとりが、独自の目標と優先を掲げ、一味違った経験をしています。一人ひとりが、ロータリーを独自の解釈で理解しているのです。私にとってロータリーとは、「どのような団体か」ではなく、「何をしているか」で定義されます。すなわち、ロータリーが私たちに与えてくれる可能性、そして、その可能性を有意義かつ持続可能な奉仕によって実現する方法によって、定義されるのです。ロータリーには、112 年の豊かな歴史があります。この間にロータリーは徐々に成長し、成熟し、会員と地域社会の変わりゆくニーズに対応しながら、ある意味で大きく変わりました。しかし、その根底にあるものは同じです。それは、地域社会と世界に変化を生みだしたいという願い、そして、ロータリーを通じてそれを実現できるようになった人が集まった組織だということです。「ロータリーとは何ですか」という問いに、私たちは行動をもって答えます。奉仕を通じて変化をもたらすことによって、組織として、私たちは、ロータリーとは何か、何をするのかを世界に理解してもらおうことが、いかに重要であるかを認識しています。同時に、各クラブがロータリー奉仕を独自に定義することが、かつてないほど重要であると自覚しています。ロータリアンである私たちは、これまでよりも柔軟に、クラブの例会、活動、発展の方法を決定でき、また、もっと多くの女性や多様な会員を迎え入れて、地域社会の特色をクラブに映し出すことに力を注いでいます。長期の計画、持続可能な奉仕、全レベルでのリーダーシップの継続性を重視すること、ロータリーが世界有数のボランティア組織であり続けるよう努力しています。

2017-18 年度、「ロータリーとは何ですか」という問いに、私たちは「ロータリー：変化をもたらす」というテーマで答えます。それぞれどのような方法で奉仕することを選んだとしても、その理由は、奉仕を通じて人びとの人生に変化をもたらせると信じているからです。新しい遊び場や学校をつくる、医療や衛生設備を改善する、紛争仲裁者や助産師を研修するなど、私たちはその活動が、人数が多かるうが少なかるうが、誰かの人生をより良くしているのだと知っています。ロータリー入会のきっかけが何であれ、私たちがロータリーにとどまり続けるのは、ロータリーで充実感を得ることができるからです。この充実感は、毎週、毎年、「変化をもたらす」ロータリーの一員であることから湧き出てくるものなのです。

次回例会 平成 29 年 7 月 25 日 (火) 12:30 3 階 錦の間
友愛の日